



広報

# なほ 市民の友

第631号 毎月1回発行  
2003年(平成15年)

8月

発行●那覇市 編集●秘書広報課  
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号  
☎867-0111 ●印刷(協)丸正印刷

市の人口と世帯	
*( )内はうち外国人	
2003(平成15)年6月末現在	
総人口	309,360(1,892)
男	149,596( 947)
女	159,764( 945)
世帯数	121,865(1,119)
住民基本台帳人口の内訳(外国人を除く)	
本庁	88,132
真和志	105,613
首里	58,652
小禄	55,071



## いつまでも、なかよくしようね。

### 命のふれあいで 芽生えるもの

プームは衰えを知らず、家族の一員として、ペットを飼う世帯がますます増えています。市内にはペット同居型マンションもあらわれ、住宅建築の際も動物たちの存在は無視できなくなっています。

平成12年6月に総理府(当時)が実施した「動物愛護に関する世論調査」によると、約37パーセントの人がペットを飼っており、本市の犬の登録数も年々増え、平成14年度は8,596頭となっています。

一方、ルールを守らない一部の無責任な飼い方が付近住民に迷惑をかけている実態が市内でも見られます。飼われたペットにとっても不幸なことです。

市では市民生活に調和したペットとの適切な共生をめざし、三原区で「ペット動物の正しい飼い方モデル事業」をはじめました。

7月5日、宣言セッションに先立って行われた「NPO法人沖縄災害救助犬協会」による実演訓練では災害救助犬や盲導犬に続いて、シーズー、マルチーズなどのセラピー(癒し)犬が登場。地域の子どもたちとの命と命のふれあいが見られました。

「弱者が弱者を襲う」、異常な動物虐待などの重い衝撃が次々と報じられる中、地域と行政が連携して責任ある飼い方を促し、ペットとの共生をすすめていくことは動物愛護の心を育み、命の大切さを学ぶ機会を守ることに必要なのは、ペットを見つめる子どもたちの笑顔が教えてくれました。(2面に関連)

#### 主な紙面

- (2面) 三原区がペットと共生めざす
- (3面) 島袋光史さん、人間国宝に
- (4面・5面) ゆいれい誕生
- おめでとー 8月10日午前6時発車
- (6面) 那覇市緑化センターで見本市
- (7面) 情報PACK

### 市長談 TAIDAN ⑤



**島袋 光史**  
 (重要無形文化財「組踊音楽太鼓」保持者)  
 1920年那覇市生まれ。47年、父・光裕さんが団長を務める松劇団に入団し太鼓を習い始める。68年島袋光史太鼓研究所設立。86年国指定無形文化財「組踊」保持者に認定。94年国選定保存技術「組踊道具製作」保持者認定。

翁長雄志市長 この度は「組踊音楽太鼓」の保持者として、人間国宝の認定を受けましておめでとうございます。来年一月の「国立劇場おきなわ」開場を前にした受賞で、私も大変うれしく思っております。

### 好きだから続けられた

その「ボロンボロン、ボロンボロン」という太鼓の音を聞くと、自然に走り出していましたね。また当時、盛大に行われた波之上祭(なんみなさい)でも、必ず太鼓の音が聞こえ、未だにその音は忘れられないですね。

島袋 私は昔、那覇の中心地、旧市役所があったところの裏手に住んでいました。日頃から芝居小屋や活動写真の宣伝カッパや太鼓の音を聞くと、「それ、行け!」とよく追っかけていました。

市長 いよいよ、とんでもないですよ。私も小さい頃から、夏祭りなどで太鼓を打ったり、また好きでもありませんでしたが、しかし道として選ぶことは、私には縁がなかったのだらうと思えますが、先生にとつて、やはり運命というか宿命だったのですかね。

島袋 今思うと、あの頃からそういうもの(太鼓の音)に魅せられるということは、母親のお腹の中にあるときから好きだったのかもかもしれませんね。

島袋光史さん 私としては、それに該当したことが信じられないといった感じですよ。正直申しますと、人間国宝という4文字だけで、私が普通の人から神様にもなったような周りの状況です(笑)。今いけばん思うことは周囲に支えられて頑張ってきたことがよかったと思えます。

市長 お話をされているお顔を拝見すると、だんだん少年のようなお顔をされていますね。



本紙は「カラーバリアフリー」につとめています。お気づきの点がありましたらお寄せください。(秘書広報課 ☎862-9942)